

# 令和7年度 自己評価結果公表シート

学校法人太田学園

認定こども園 岩手中央幼稚園・保育園

## 1 園の教育目標

『身近な自然環境に触れ、友だちと仲良く遊び、思いやりの心を持ち、生きる喜びをはぐくむ。』を、教育方針とし、以下の7つを教育目標としている。

- 1, 教養を深め郷土を愛するこども
- 2, 健康で明るく 元気なこども
- 3, 自分のことは 自分でできるこども
- 4, 他人の話をよく聞き 自分の考えをはっきり言えるこども
- 4, 友だちにやさしくしたり 親切にできるこども
- 5, 何でもよく見 よく考えるこども
- 6, 情操の豊かなこども
- 7, のびのびと表現し 喜んで想像するこども

## 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって教育・保育の質を高め、保育教諭自らが客観的に自園を見る目を養い、保護者のニーズを確認することで、本園としてのビジョンを明確化し、認定こども園として今後担う役割について検討することを重点項目とする。

## 3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組内容
認定こども園教育・保育要領の精神を踏まえ、園の教育理念、教育方針にしたがい、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	年・月週での保育計画をしっかりと立てながら保育にあたることができた。しかし、年間の計画については見直しを図り、改善やさらなる向上をはかっていく。また年度末の指導要録について、年齢にそぐわない「ねらい」が見えてきたクラスもあり、各年齢に合わせた保育のねらいを改めて問い直し学ぶ必要がある。
教育・保育要領、子どもの実態などをもとに考え、作成し、学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	今年度は自己評価を本園独自のものに作り替え、項目も年齢ごとや現状の保育を具体的に見つめ直せるような内容に変更した。それを学期末ごとに行い、自己を振り返る手立てとなった。何が足りていないのか各自明確にすることができ向上につながったと感じる。
保育者としての資質や能力、良識、適正など、教育の質の向上のために園内研修を充実させる。	今年度も園内研修を工夫し取り組めた。例年の救命講習会に加えて、嘔吐処理・便処理の仕方について外部研修を受けてそれを園全体で演習することで各教諭のスキルアップにつながった。衛生面での意識改革も向上したと感じる。また園

	内研修の方法も工夫することができ、現状の保育の悩みを共有したり、みんなでより良い方法を探ることができ翌日の保育への指針となった。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる	年度末に保育アンケートや食育アンケートを実施。各家庭の思いを知ることができた。具体的に改善すべき点はすぐに取り組んでいく。また、普段からの家庭との丁寧なやりとりの大切さを改めて感じている。話しやすい雰囲気・些細なことでも気軽に言えるような園であるよう今後も努めていく。

#### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

<p>認定こども園に移行し3年目となる年度だったが、新たなことも取り入れながら努めることができた。一方で教諭の思いが先行してしまい子どもの実態に即していない場面もあったことは否めない。PDCA サイクルをしっかりと持ち、実態に即した計画やその計画により園や各教諭の良さ・個性が見られるよう改善を図って行く必要がある</p>
---

#### 5 今後取り組むべき課題（教諭の反省から見えてきた今後の課題）

課 題	具体的な取り組み方法
「遊び」の充実を図り、子どもたちの主体的な活動を促す環境づくりに取り組む	「明日もこれで遊べる」「続きができる」という明日へのつながりを意識した遊び環境を工夫していく。これまでは時間や環境がそうした子どもたちの思いや主体性に即していなかったと反省が多い。時間設定や環境を工夫しながら、より遊びに没頭でき、そこから子どもたち自身が自ら遊びを充実できるよう努めていく。遊びを通して育つことについて学びながら改善していく。
ノンコンタクトタイム・ワークバランスを考え、各教諭の保育の向上につなげる	本園は教諭の役割意識が高く、少しでも子どものそばにいたいという思いが大きい。しかし3学期の園内研修でその重要性について改めて学び、教諭間でもしっかりと休憩をはさみながら保育の充実に努めることができた。しかし、帰宅後もなかなか仕事とプライベートを切り替えられない教諭もいる。その良さを認めながらも教諭の心身の健康に努めていく。

<p>各教諭の良さを引き出しながら、現状の子どもに即した保育など、例年にとらわれない新たな考えを取り入れていく改革の年にする</p>	<p>話し合いを重ねながらより良い保育や行事を考えていく本園の良さがある一方で今年度見えてきた課題として、何事も計画を立てルールを作ってしまうがちな面であった。その枠組の中でなかなか教諭個々の個性が出せなかったり、「例年通り」から抜け出せない面も多い。年度末に全体でも来年度の話し合いをみんなでできたことがとても有益であり、そうしたこれまでのルールから脱却し、現状の子どものみを見てそこに合わせた計画を各教諭が考えていくことを共通認識できた。</p> <p>令和8年度は改革の年として、新たなことに挑戦していく</p>
--	---